

アーキテクト・ガーデン 2014 基調講演



アーキテクト
ガーデン
実行委員会
小林 光義

7月3日に開催されたアーキテクト・ガーデン 2014 基調講演は、坂茂氏をお招きし「作品づくりと社会貢献の両立を目指して」と題して行われました。定員 120 名のところ立見者を含め 177 名の参加者で会場は埋め尽くされ、その内半数以上が一般 77 人・学生 43 人の参加であったことからこの反響を理解することができます。



坂茂氏

基調講演会場風景

坂茂氏に頂いたテーマは社会に対する『建築家の姿勢』を強く窺い知るものであり、7月11日付けのある建設新聞でも『ビジネスシステム構築し社会貢献』という見出しでアーキテクト・ガーデン 2014 基調講演の記事が紹介されています。

講演冒頭、坂氏からつぎのような話がありました。10 年程建築家として行動していると建築家の社会的立場の低さを考えるようになった。とかく自分も含め建築家はモニュメンタルな建築を求められそして目指してきた。一方、人々が地震で亡くなるのは、建築が倒壊して亡くなるように建築の影響が大きい。自然災害に対して自分の職能を活かし社会に貢献できるのではないだろうか…建築家がかかわる事によって出来る事がきつとあると…

そして話は初期のころからの作品の紹介になりました。

1986 年、実務経験が無い中最初に手掛けたアアルトの展示会場の計画と小田原仮設ホールの紹介、そしてその中では「たまに冗談をいいます。日本の人は笑わないので言っておきますが、おもしろい事言ったら笑ってくださいね」とユーモアのある一面を披露される場面がありました。多くの実績を逸話とともに紹介され支援活動の話になりました。

1994 年アフリカのルワンダ、200 万人以上の難民の写真を見て国連へ手紙でアプローチするも返信が無かったことから直接ジュネーブへ行き担当者に提案、木を使った難民シェルターだったため伐採による環境破壊が進行し代替したアルミパイプは売り払ってしまうので伐採は止まらず、紙管に注目をされモニタリングを行い実現した 50 ドル / 戸シェルターの紹介。1995 年阪神淡路大震災時には、たかとり教会を取り巻くボートピープルの支援に向かい、「教会が無くなって本当の教会になった」「建物は無くなったが心がひとつになることができた」という神父の言葉に感動し、仮設住宅の建設・仮設教会の建

設を困難極まるエピソードとともに紹介。その後、この教会が台湾地震の震災町に寄付され現在も使用されていることから、建築の仮設とパーマナント (恒久) について考えさせられた。商業施設は壊されてしまえばコンクリートで造っても仮設でしかないが紙で造っても愛してもらえれば恒久になるのだと…

1999 年トルコで仮設住宅支援、2001 年インドで復興住宅支援、2008 年中国四川省で仮設学校支援、そして 2011 年の東北。プライバシーの全くない避難所への支援活動、続いてコンテナを使用した仮設住宅の建設活動を行ってきた数多くの支援活動を紹介。

そして現在、仮設住宅は工場が次々に閉鎖されていて次に震災にあつたらまかないきれないだろう現状がある。もはや日本だけでは作りきれない。ひとつの国だけの解決は困難である。そして新たな生産方法を考える必要を感じ、ノーベル平和賞を受けたバングラディッシュのユニシス先生の『マイクロファイナンス』(銀行を作って無利子で貧しい方にお金を貸して起業を促す方法) の考え方を参考に新しいタイプの仮設住宅を考えた。現在、断熱材を FRP でサンドしたパネルを組み合わせた仮設住宅を考えている。そして、問題が起こった時、国際的な形で経済性を伴ったシステムを構築しないと震災の問題や途上国の住まいの問題も解決できないと考えている。そのような事からこのパネル工場は途上国に作り (現在フィリピンで完成これからプロトタイプを造る) 地元の人たちの新しい雇用の場を創出しつつラム化住宅の改善をしていくというプログラムになっている。そして、いざ日本や近隣諸国で災害が生じた場合はそのパネルを輸入し仮設住宅に利用するというものである。

このように今後もボランティア活動と共に、皆に愛され続けるパーマナント (恒久) な建築を造りたい、という講演内容でした。

質疑応答では、構造家の重要性に触れ、建築活動においてパートナーが必要であると説明がありました。またボランティア支援団体 RedR UK (レッドアール英国) の紹介があり、RedR ジャパンの設立を是非 JIA で行ったらどうでしょうかという問いかけがありました。

その後の懇親会ではサプライズ的にブリッカー賞受賞のお祝いとして坂茂氏にケーキ入刀して頂いたりと終始活況で充実した会となりました。



ブリッカー賞受賞お祝い



懇親会会場風景

講演会・シンポジウム 環境委員会

環境委員会活動報告

環境委員会委員長 寺尾 信子



■『Think global, Act local』

2014 年度「環境委員会」の活動が始まりました。地球環境問題への取り組みでは、『Think global, Act local』---「グローバルな広い視野で考え、ローカルに行動する」という趣旨の言葉が良く使われます。地域の環境と建築に関する様々のテーマについて、会員相互あるいは地域の専門家や市民との交流を図り、互いの能力・見識を高め合うことを使命と考え委員会は動き始めました。具体的には、支部内地域会と連携する方法を検討し、「環境配慮」※1 に関する「情報交流広場」を創ることが委員会の役割と考えています。

※1 建築設計者にとっての環境配慮の例 --- 地球環境・建築憲章に掲げられている 5 つの目標「長寿命」「自然共生」「省エネルギー」「省資源・循環」「継承」など。2000 年 6 月 1 日に建築関連 5 団体により発表された。

■ 支部の環境委員会に期待される活動とは ---

日常の建築設計・監理業務において、特段に要求されなくても「環境配慮」は積極的に取り組むべき基本事項です。社会全体にその考えを浸透させてゆくために、以下の (1) から (4) のメリハリのついた行動が必要です。支部の環境委員会に期待される活動は (2) の部分と考えています。

- (1) 個人レベルの行動 / 日常の設計業務や暮らしの中で実践している「環境配慮」
- (2) 比較的気候特性が類似する近隣地域ネットワークの形成 / 情報の共有により実践する「環境配慮」 --- (例) 2013 年度発足「JIA 関東甲信越支部 環境委員会」
- (3) 全国に及ぶ広範囲のネットワークの形成 / それぞれの地域特性の違いを理解した上での情報共有や自治体・国の施策への提言。 --- (例) 2014 年度発足「JIA 環境会議」
- (4) 多数の建築関係団体の垣根を超えた結束 / 国の施策に対する提言や世界視野の情報の共有 --- (例) 2014 年度発足「低炭素社会推進会議」(建築関係 17 団体)

■ 情報共有と学びの先に見えるもの

JIA 関東甲信越支部の 10 都県は距離的に近いとは言え、寒冷な山間部から温暖な平野部まで気候特性には幅があります。情報共有や学習ののち、その先に目指す目標にはどのようなものがあるでしょうか。地域ごとの特性を携え、時代を越えて受け継ぎたい「長寿命の建物」と「地域に愛されるまちなみ」をコツコツ

積み上げてゆく、風土の違いを超えて共通を目指す目標の例として大いに期待されるものです。

■ フォーラム環境 2014 「建築とつながる緑 01」

中村拓志講演会「木と建築の関係」

環境委員会キックオフ行事となるこの講演会は、アーキテクト・ガーデン 2014 公式プログラムとして 2014.6.26 (木) 建築家会館本館 1F ホールにて開催されました。ホールの椅子 120 席は満席、窓際のベンチ席も利用して、主催側含め 132 名参加の行事となりました。

講演では、中村拓志氏の緑に添う・緑と共にある印象深い建築空間が、設計過程の逸話とともに数多く紹介されました。第二部では 3 名の委員を交えてトークセッションを行い、事前に録ミュージアムを見学した委員の体験・感想や中村氏への質問が行われ、また会場から多くの質問が有り熱気あふれるクロストークとなりました。2 時間のプログラムは充実の内容で終わり、引き続き懇親会が行われました。

■ 「フォーラム環境」の今後

フォーラム環境 (情報交流広場) は、東京にのみ開催拠点を置くのではなく、各県での開催についても積極的に検討したいと考えます。また、イベント開催を活動の目標とするより、それまでのプロセスを大切に考えたいと思います。そのためには、支部内の多数の地域会に 1 名程度の「環境担当窓口」を設けて頂き、フォーラム環境の企画に積極的な意見を投げかけて頂く、そういうネットワークを築くことが有効ではないかと考えています。それらの具体的な協力依頼については、委員会において協議の上、順次発信をしてゆきたいと思っておりますので、引き続きご支援下さい。

〈(株) 寺尾三上建築事務所〉



2014 年 6 月 26 日 (木) 16 ~ 18 時の講演会風景。平日にもかかわらず、会場の建築家会館本館 1F ホールが 132 名の参加者で埋まり、冒頭の上浪支部長の挨拶に続き、講演会 (講師：中村拓志氏) が開催された。

講演会・シンポジウム 建築相談委員会

セミナー
「トラブルを未然に防ぐために
～第三者の目によるチェックのすすめ!!」

セミナーWG 前主査 小池 和子



■ 6月14日(土) 13時半～ 京橋創生館 AGC スタジオにて開催。一般の方、相談者、消費者相談員、弁護士、リフォーム・紛争処理支援センター、JIA 相談室員等 45 名が参加。セミナーはコーストリム配信予定。後援：東京都消費生活総合センター

建築相談委員会に所属する各相談室は、長年、一般の人を対象に主に住宅に関する相談を受けてきた。JIA が一般の方向けに実施する建築祭「アーキテクト・ガーデン」にも毎年参加し、今年は「トラブルを未然に防ぐために」の第二弾として「第三者の目によるチェックのすすめ!!」というタイトルで、セミナーを開催した。第一部は東京都消費生活総合センター主任相談員玉城恵子さんから、一般消費者の建築相談内容と傾向についてお話いただいた。第二

部は、首都圏相談室の尾崎、小島、白須、高塚各相談室員から、マンションの維持・管理のトラブルへの関わり方や解決方法、計画修繕のチェックポイント、構造や設備関連のトラブル解消に向けた関わり方と技術面のチェックポイントを、理解しやすいようにイラストや写真を多用し技術資料や事例を紹介した。アンケートでは、満足度は高かったものの、「第三者」性のある建築家 (JIA) の存在と活用の PR 不足もあげられていた。真摯に受け止めるとともに、トラブルを未然に防ぐために、消費者の方への教育、「第三者」性、建築のセカンドオピニオンとしての建築家の必要性を強く認識させられたセミナーだった。



会場風景：玉城恵子さんのお話

〈生活構造研究所〉

講演会・シンポジウム 建築・まちづくり委員会

シンポジウム
「新国立競技場とオリンピック施設計画に
何が必要か？」

建築・まちづくり委員会委員長 連 健夫



■ 新国立競技場への関心は高く、100 人を超える参加者があった。ロンドンオリンピックの成功は、CABE (建築・まちづくり機構) の関与があり、新国立競技場の問題は日本にも、そのようなアドバイス機構があれば生じなかったと言われている。オリンピック施設にとどまらず、今後の良質な建築、美しいまちづくりの制度設計への道筋がテーマである。パネラーの元倉真琴氏は横文彦氏の JIA マガジンへの寄稿論文から始まった問題指摘の経緯を話された。森まゆみ氏は「神宮外苑と国立競技場を未来へ手渡す会」の主張として神宮外苑の森を守ること、改修案を薦めること、の 2 点を話された。坂井文氏は、ロンドンオリンピックに実施された 30 回にわたる CABE のデザインレビューを説明された。上浪寛氏からは JIA が公開

を主張し、実現に向け努力していた 7 月 7 日の JSC の説明会が、様々な経緯を経て非公開になったという話がされた。ディスカッションでは、コメンテーターの芦原太郎氏は「アドバイス機構を主張し、専門家として深堀をする中で、市民に情報公開することが大切」という JIA の立ち位置と、元倉真琴氏の「問題点を JSC に認めさせることが大切」とする立ち位置の違いが浮き彫りとなった。コメンテーターの長島孝一氏からは、これを機会に日本においても CABE のような第三者組織を実現させることが大切とコメントされた。会場からも活発な質問があり、解体を止めることの緊急性などが指摘された。次のステップとしては、如何に公開の意見交換が実現できるかがポイントとして浮き彫りになった。



7月12日シンポジウムの様子

〈(有) 連健夫建築研究室〉

講演会・シンポジウム 杉並地域会

JIA 杉並土曜学校
「青木淳さんと見る、大宮前体育館」

杉並地域会代表 林 美樹



■ 2014 年度土曜学校の第 1 回は、杉並区大宮前体育館を設計者の青木淳さんの案内で見学しようという企画です。

大宮前体育館は、2008 年に設計者選定資質評価型プロポーザルが行われ、青木淳さんの案が選ばれました。この春竣工し、既に区民の体育施設として開館しているため、月 1 回の休館日を使い平日の開催となりました。WEB で情報開示すると申込みが殺到し、なんと 1



土曜学校のチラシ

日で定員を超えてしまう始末。慌てて少しプログラムを変更し当日に臨みました。まずは、アリーナで青木さんのお話を伺いました。ヴォリュームの大きなアリーナなどを地下に埋めたのは何故か、コンクリートの壁面が波打っているのは何故か、円ではなく楕円の平面をしているのは何故か、既存の 4 本のイチョウを残した話等。あくまでも一般向けの見学会であることを意識して、青木さんは平易な言葉でお話くださいました。その後は 3 グループに分かれ、現場担当者がついて説明を受けながら 1 時間半見学をしました。参加者は、やはり若い設計者や建築の学生さんが多かったのですが、一般の方からも、建築を味わうことができたとの感想をいただけたのは、成功だったといえるのではないかと思います。



アリーナで青木淳さんの話を聴く

〈Studio PRANA〉

講演会・シンポジウム 住宅部会

LIXIL・SUMAI セミナー
「建築家が提案するリノベーション」
～既存の住まいを蘇らせるテクニック～

市民住宅講座 WG 大川 直治



■ 6月28日(水) 13時30分より LIXIL ショールーム東京 (西新宿) にて、2004 年より毎月開催している LIXIL SUMAI セミナー Part19 『建築家が提案するリノベーション』～既存の住まいを蘇らせるテクニック～を講師：河辺近・中西ヒロツグ、コーディネーター：大川直治により、14 名の参加者で開催しました。

中古住宅を取得し改装して住むというスタイルが土地価格の高い都市部での選択肢の一つとして注目されています。また、日本の空き家率は 13.1% (東京 11.1%、神奈川 10.5%) (H20 年) もあり、これだけの資産をどのように上手く使うかが建物の長寿命化や経済的にも重要な意味を持っています。

二人の講師により、中古マンションと戸建て住宅をリノベシ

ンする場合の注意事項と具体的事例を紹介しました。特にリノベーションする目的は単なる内装の更新ではなく、生活自体を見直して改善する事が大切です。現在の住まいから問題点を抽出し、新たな暮らし方の提案をする。そこに建築家の豊富な経験と多くの知識が役立ち、依頼する価値があります。

最後に、「設計図」「確認申請の副本や検査済書」「改修した時期と内容」と言った住宅の履歴情報の保存がリノベーションにも大切である事をお伝えして終了しました。



セミナー風景

本年度も住宅部会では一般の方に家づくりの正しい知識を伝え、建築家の職能を理解してもらう為に家づくりセミナーを開催してゆきます。

〈大川建築都市設計研究所〉

講演会・シンポジウム 住宅部会

JIA 住宅部会トークイベント
「山形県金山町まちなみ再生の試み」

市民住宅講座 WG 大川 直治



■ 7月14日(月) 18時30分より JIA 館 1 階建築家クラブにて、JIA 住宅部会トークイベント「山形県金山町まちなみ再生の試み」を講師：林寛治、片山和俊、コーディネーター：大川直治により、30 名の参加者で開催しました。

2002 年の建築学会賞 (業績)、2007 年土木学会デザイン賞・最優秀賞を受賞し、2010 年美しいまちなみ大賞に選ばれた金山町のまちなみ造りは、四半世紀に渡る林・片山両氏の町との関わりから生まれています。その間に、金山大工による「住宅建築コンクール」や「金山町の風景と調和した街並み景観条例」、町の中心地区整備計画の実施運営などを続け、両氏の設計で中心地区の核となる街角交流ひろば「マルコの蔵」も昨年竣工し、まちづくりは現在進行中です。

特筆すべきは街なみを形成する金山町タイプの建物が、町の主要

産業である金山杉を多く使ったデザインであり、その建物を地元大工が施工する事により、そのまま町の産業振興となっていることです。また、町民が参加するドイツの街並研修など、まちづくりの共通意識を育てる事業が実施され、その事がそのまま人材の育成となっており、長い間まちづくりの方向がぶれる事なく進んだ要因がここにあると思われ、まさに「まちづくりは人づくり」を実践しています。両氏のこれまで携わってきたまちづくりや設計について解説していただくにはとても時間が足りませんでした。町づくりと建築家のかかわり方のお手本となる事例を紹介していただき、充実したセミナーが出来たかと思いました。



セミナー風景



林・片山両講師

講演会・シンポジウム 茨城地域会

「パリの建築を訪ねて」

茨城地域会会員 飯島 洋省



■ 開催日時：2014 年 6 月 25 日 18 時 30 分～

場所：水戸市内「レストランよこかわ」

2013 年 11 月に茨城地域会にて実施したパリの建築探訪について報告会を行った。会は、プロジェクターにて、訪問建築を投影しながらの解説を、会員の飯島、佐藤、篠根、石川より行い、懇談形式に進めた。食事をとりながらのサロンのような雰囲気の中、会を運営でき、会員の新たな情報収集、振り返りのよい場となった。また、一般の参加者からも積極的に質問をいただき、また建築家にはない視点でのコメントも聞くことができ新鮮な時間となった。

【ツアー概要】 期間：2013 年 11 月 22 日～ 11 月 28 日

参加人数：8 名、視察地：パリ市内・モン・サン・ミッシェル、ボンピドゥセンター・メス、ルーブル・ランス 他

〈(株) 飯島洋省 andHAND 建築設計事務所〉



報告会の様子

モン・サン・ミッシェル

ボンピドゥ・メス



ルーブル・ランス

アラブ世界研究所

モバイルアート



ボンピドゥセンター

北駅

ルーブルイスラム芸術展示館

講演会・シンポジウム 建築家写真倶楽部

写真家「飯田鉄」氏のトーク（総合司会：大澤秀雄）
街並み、建築写真の再発見、
そしてカメラという厄介な魔法の暗箱



建築家写真倶楽部会長 兼松 紘一郎

■ 6月26日（木）、JIA 建築家クラブに JIA 会員の他、写真評論家、飯田さんの教え子や写真に興味を持つ方々など三十数名が集まった。

飯田さんは、ご自身が取りまとめた「建築並びに都市の景観写真略史」と題したペーパーをテキストとして写真の変遷を映像で映し出し、建築やまちの変遷と、撮る写真家と撮った写真とが深い関連性の中で時代が動いていくことを浮かび上がらせて、参加者に深い感銘を与えた。翌日参加した女性からのメールを書き添えておく。「映し出された写真を見ていたら、前面に広い道路が入っているのが何点かあって、無機質な道路が表情を持っていた

り、余白的な効果があったり面白く、私のような素人には写真の歴史を150年以上前にさかのぼって話されたのに興味津津でした。案内頂いたので行けた会なので感謝！です。

後半は兼松が聞き手になってデジタル化になった昨今の課題などやり取りしたが、「写真を撮り、その成果を残していく行為は、将来に種を埋め込むことだ。たとえば写真集『街区の眺め』（写真飯田鉄：日本カメラ刊）は、1984年の東京の現状（最新状況）である」というメッセージに、得心することになった。

〈(株)兼松設計〉



飯田 鉄氏 Photo：H.Tateishi

当日の様子 Photo：T.Kirihara

講演会・シンポジウム 総務委員会

「新会員の集い」

総務委員会総務委員 上垣内 伸一



■ 7月3日 15:45～ 建築家クラブにて開催。

「新会員の集い」は、入会3年以内の新会員を対象とした JIA 活動のオリエンテーション企画ですが、今年は坂茂さんの基調講演と同日開催ということで、前半をガイダンス、後半を講演と懇親会への参加というリッチなプログラムとなりました。新規正会員7名と、今年からいよいよ新会員制度の下で準会員2名の合計9名の参加。前半は、芦原会長から JIA の概要紹介、続いて上垣内部長から建築家憲章や倫理規程と最近の支部取組紹介、そして年々その重要性が増す建築家賠償責任保険と、支部各組織とその活動についての紹介があり、残りの時間で出席者の皆さんにスライドを用いた自己紹介をしていただきました。その後、AG 実行委員会のご配慮により最前列での基調講演参加、坂茂さんを囲んでの懇親会まで、5時間に及

ぶ濃密な時間となりました。支部では今年から、新会員に対して秋の建築家大会への助成をするに当たり、その資格要件に新会員の集いへの出席が必須となったこともあり、意欲的な新会員の皆さんの参加で大いに盛り上がりました。JIA に入会したはいいけれど活動のきっかけが掴めないという潜在的なアクティブ会員を広く掘り起こす上でも、新会員の集いを益々充実させていきたいところです。

新会員の集いは、入会3年以内の方が参加いただけますので、まだ未参加の新会員の方は来年度の新会員の集いに是非ご参加いただき、更に全国大会の助成金受領資格を獲得して下さい。



当日の様子

〈ウエグイト建築設計事務所〉

講演会・シンポジウム 都市デザイン部会

シンポジウム
風致地区とは
—地域の資産を活かしたまちづくり



都市デザイン部会会長 鈴木 和貴

■ 7月5日（土）17:15～ 建築家クラブにて開催。

「風致地区とは—地域の資産を活かしたまちづくり」をテーマとした、当部会恒例の円卓セミナーは、阿部伸太先生による講演「風致地区制度から読み解く街を育てる仕掛け」から。

「風致地区制度は指定することによってのみ風致の保存を図ろうとする制度ではなく、指定の後、その地区の都市化の実情を踏まえた風致の維持（・育成）を可能にしようとした制度であった」との、この制度の理念に関わるお話の中に、この制度が高い志に根付いたものであることを知る。

石川榮耀やレイモンド・アンウィンの目指した田園都市のイメージには、自然システムとしての「風土」と社会システムとしての

「人の生活」の上に風致資源があるとしたもので、このダイアグラムとともに一体として育成組織の必要性があったことを説かれた。そこには彼らが官製都市計画の限界を感じ「上からでなく下から積み上げていく都市計画」を目指したことに繋がる。すなわち、風致地区制度は指定された後は「行政の主導」ではなく「市民が守り育てるもの」であるということが都市計画上の意義であり、この制度の「重み」であることを意見交換にて共有した。

〈PAX 建築計画事務所〉



セミナー風景

街歩き・見学会 情報開発部会

国立近現代建築資料館見学

情報開発部会会長 天神 良久



■ 情報開発部会は、部会設立時の CAD・CG などの利用技術の情報発信から始まり、昨今ではスマホ、モバイル端末の利用方法、時の先端技術動向等々と調査範囲を拡大し、勉強会の開催、会員間での情報共有を推進しています。今回はアーキテクト・ガーデン 2014 建築祭のイベントとして建築図面のアーカイブスの動向、デジタル展示技術等の見学を目的として国立近現代建築資料館（東京都文京区湯島）の見学会を開催しました。

開催日：2014年7月4日（金）

開始時間：14時30分～16時30分、参加者：13名

当日の見学会では、桐原武志主任調査官（JIA 会員）による施設誕生の背景、情報収集の仕組み、資料の保管方法等に関する解説、ならびに館内案内を行って頂きました。

■ 国立近現代建築資料館の概要

日本の建築文化をより多くの人々に知ってもらい、次の世代へと受け継いでゆくために、国立近現代建築資料館（文化庁）は生まれました。我が国の近現代建築に関する資料（図面や模型等）について、劣化、散逸、海外への流出等を防ぐことを目的として、全国的な所在状況の調査、関連資料を持つ機関（大学等）との連携、緊急に保護が必要な資料の収集・保管を行います。また、展示や普及活動を通じ、近現代建築とその関係資料に対する国民の理解増進を図っています。場所は千代田線湯島駅から徒歩3分、旧岩崎邸が隣接されています。



■ 展示の様子

国立近現代建築資料館での展示の推移は、2013年5月8日～6月14日【建築資料にみる東京オリンピック（1964）】、2013年11月27日～2014年2月23日【人間のための建築 建築資料に見る坂倉準三】。現在2014年5月8日～8月24日【建築アーカイブスをめざして】のイベントが開催されています。建築家の力作の図面が所せましと展示されており、当日の見学者も図面を



写真1



写真2

目にして足が止まり会話も弾みました。（写真1）筆者が驚いたのは何回か施設を利用させて頂いた「吉阪隆正+U研究室設計の八王子セミナーハウス本館の断面図」の展示で、クサビ型建築物のフーチンの造形が判明したことでした。

展示会場での記念撮影（写真2）

■ 見学会での桐原武志主任調査官との質疑応答（写真3）

Q. 国立近現代建築資料館の設立の経緯

A. 田中真紀子衆議院議員（当時）らが中心となった強い働きかけで設置（2013年5月）に至った。設置者は文化庁で、当資料館は文化庁の施設をリニューアルした。

Q. 図面の収集方法・対価に関して

A. 提供者（継承している親族等）からの申し入れ、又は、開館からの直接交渉等により収集・保管を行う。収集した資料は虫の駆除を行い、デジタル撮影し、原図は保管庫で保管する。提供者への対価の支払いは行わない。

■ 見学会を終わって

著名な近現代建築家の関係資料が海外流失までしているそうです。国立近現代建築資料館の役目は今後益々重要になってきます。皆さんも是非おいでください。

〈(株)ケー・デー・シー〉



【建築アーカイブスをめざして】

街歩き・見学会 目黒地域会

第12回
「いい緑のある住みたい街をつくろう
まち歩き」の会

目黒地域会会員 岡野 正人



■ 去る6月14日の土曜日、恒例となりました目黒地域会主催のまち歩き会を行いました。

今回は、恵比寿駅を出発点、恵比寿ガーデンプレイス、目黒駅、ドレメ通り、不動前駅、目黒不動尊、林試の森、と目黒区と品川区の区界域を歩き、西小山駅をゴールとしました。

まち歩きは、ガーデンプレイスに代表されるダイナミックな地域を観た後、日の丸自動車学校、聖アンセルモ教会、杉野ドレメ学園、喜多能楽堂、などの文化的な施設、大円寺、氷川神社、かむろ坂、目黒不動尊に代表される歴史的施設、そして、林試の森と言う自然豊かな地域を巡りました。途中、不動前駅周辺で、昼食休みとしました。

西小山駅に近い目黒本町5丁目域は、東京都のハザードマップで、

大震災時に最も延焼の恐れが高い地域とされ、拡幅された品川区の「かむろ坂通り」から続く計画道路補助46号線拡幅の進捗状況を観ました。



当日の活動状況

自由に参観できた聖アンセルモ教会と併せて、喜多能楽堂では館内見学の貴重な機会を得ることができました。

西小山駅での解散の直前に、新会員の加藤雅明氏の案内で、原町1丁目のユニークな SITE (ご自分の事務所) を見学できました。

目黒区の近代的な建築群と共に、文化性豊かな地域、歴史的な地域、自然豊かな地域を見て回り、地域の町並みの多様性を実感できました。

以上、目黒区と品川区の区界を中心に全行程7.2kmの道のりを約5時間かけて歩き終えました。

当日は、梅雨時の真っ只中にも拘らず、幸運にも晴天に恵まれ、JIA 城南地域会の4名を含む、総勢20名の参加者を集め盛会のまち歩きとなりました。

〈M. O. Planning〉

街歩き・見学会 栃木地域会

建築見学会
「戦後日本住宅伝説展」+
「ヒヤシンスハウス」+「ヤオコー美術館」

栃木地域会 佐藤 公紀



■ 好天に恵まれた7月12日、JIA 栃木クラブ主催の建築見学会を行いました。

参加者数は会員4名に一般参加者12名を加えた合計16名です。朝8時に宇都宮を出たバスは、最初に川越郊外にある伊東豊雄氏のヤオコー美術館に着き、完成度の高いインテリアと住宅地にフィットする小ぶりなヴォーリムを見学しました。

お昼は川越市内にある鏡山酒造跡地を再生した商業施設で「天井+蕎麦」をいただいて施設を見学。そのあと、浦和の別所沼公園内にたたずむ立原道造のヒヤシンスハウスを見学しました。内部の空間体験が出来た事は本日の大収穫です。

そして埼玉県立近代美術館の「戦後住宅伝説展—五十嵐太郎監

修」で年配者は昔を振り返りながら、若い人は新鮮な驚きを感じながら鑑賞した、とても満腹感のある1日でした。

〈(株)フケタ設計〉



ヤオコー美術館前で参加者と

街歩き・見学会 群馬地域会

まえばし建築めぐり

群馬地域会 神澤 宣次



■ 6月29日午後13:30。幸いにも小雨が上がり薄日射す前橋駅前、JIA 群馬地域会会員の他、行政職員の方、まちあるきや景観、前橋に興味のある方々等計24名が参加し、AG 参加事業「まえばし建築めぐり」がスタートしました。



馬場川沿い散策

上毛倉庫、馬場川、旧大竹家煉瓦蔵、前橋文学館、旧安田銀行担保倉庫、橋林寺、臨江閣をそれぞれ担当の解説を交えながら鑑賞して行きました。途中少しだけ雨模様となりましたが、大きな支障もなく楽しみながらのまちあるきを実施する

ことが出来ました。

奇しくも現在群馬県では、富岡製糸場と絹産業遺産群が世界遺産に登録され、県内全体が沸き立っていますが、JIA 群馬地域会は県内各地域での活動の一環として、2004年に前橋市街地の絹産業遺産群としての建造物を紹介した「まえばし建築MAP」を作製しています。製糸場に代表される「絹」の歴史は、近現代群馬の歴史そのものであり、見学した施設は全てその一点で繋がっています。MAP制作後十年を経た今、この様な継続事業を実施する事で、街の歴史や建造物、地域のなりたちやその背景など、市街地活性化や街の魅力を再発見するヒントとなることを期待しています。

〈かんざわ一級建築士事務所〉



臨江閣での記念撮影

街歩き・見学会 城南地域会

「城南の崖線に取り付く坂と生活」

城南地域会代表 松本 裕



■ 7/5日の「城南散歩」は一般区民も参加して行われた。多摩川の浸食によって形成された国分寺崖線の武蔵野地南端の南北崖線に沿って、久が原台、荏原台、目黒台、且つ古の坂道を繋いで歩くことを企画した。多摩川駅から品川駅迄の徒歩距離は大凡20km、高低差も多く、今回は第1ステージ(多摩川～大森)、次回は第2ステージ(大森～品川)に分けた。

多摩川駅から先ず多摩川公園にて調布浄水場跡、亀甲山古墳(4世紀前半～後半にかけての古墳群10墳、亀甲山古墳は長辺107.25m、円部径66m)、公園内古墳博物館等を見学。端正な佇まいの住宅街の坂道を下り、久が原台崖線下の六郷水路(江戸時代初期に完成、近年水路公園整備)沿いを歩く。鶴の木辺りにて崖線



池上本門寺五重塔

の坂道を上下し、崖線の緑地保全された松山公園にて一休み。久が原台に上がり、環8を横断し一路千鳥町を目指す。此処より進路を北に向かい、久が原の住宅街を歩く。街区、宅地割等が広い。将来も狭小化されない事を願う。久が原八幡神社に参拝。これより呑川の低地に向かってS字状の道を下る。呑川を挟んで1国道迄の低地帯は広い。池上本門寺は東京最南端の高台(標高34m)に位置し、国宝五重塔(1607年)は古の旅人には遠方から目立った事であろう。領内北辺より坂を下り、荏原台住宅街の蓬莱坂を目指し、続いて分水嶺状の道を進むと左手、両側に階段が付いた坂道を一気に下る。低地の道は複雑に交差して川端龍子記念館に辿り着く。環七を越え大森の台地に西側より取り付く。道幅狭い坂道に急峻な勾配に家々が建ち並ぶ状況は良好な風景とは言い難い。台地住宅街に上がり右折左折を繰り返す、漸くにして天祖神社に到着。後は階段を下りれば大森駅前の懇親会で旨いビールが待っている。所要時間5時間半はこの蒸し暑い季節には厳しい道程であった。



大森山王天祖神社にて

〈(有)松本建築設計事務所〉

街歩き・見学会 千代田地域会

レクチャー+街あるき
「千代田で探る鉄道遺産と技術者の知恵」

千代田地域会事務局長 桐原 武志



■ 新橋と横浜の間に鉄道が開業した明治以降、東京には数多くの鉄道施設が建設されました。特に御茶ノ水-神田-秋葉原を結ぶ三角形のエリアには、駅・橋・架道橋、高架橋・・・そして煉瓦造・



松竹町架道橋

鉄骨造・RC造など、明治時代から現代に至る技術の発展に伴い多様な鉄道遺産が集積しています。それは、過去の遺産ではなく現役のリビング・ヘリテイジです。

そのような鉄道遺産を、鉄道総合技術研究所の小野田滋氏

と巡り、技術者達の知恵と工夫を発見すると共に、都市の景観としての価値を認識する街歩きを企画し開催しました。

小野田氏のレクチャーの後、都市鉄道駅の原点が凝縮されて



集合写真 マーチエキユート神田万世橋にて

いるJR御茶ノ水駅に始まり、シンプルながら設計者の景観への配慮がこめられている地下鉄丸ノ内線の御茶ノ水橋梁、旧万世橋駅の魅力を商業施設として再生したマーチエキユート神田万世橋、3世代の構法が1か所で見ることが出来る平永橋架道橋、最後はダイナミックなアーチが連続する第一佐間町橋高架橋まで、計17か所の鉄道遺産を巡りました。詳しくは千代田地域会のWeb Site (<http://jiachiyoda.web.fc2.com/>) をご覧ください。

〈芦原建築設計研究所/国立近代建築資料館〉

特集：アーキテクト・ガーデン 2014 建築祭

展示・ワークショップ ミケランジェロ会

新宿西口プロムナード展

ミケランジェロ会事務局 阿部 一尋



■ 新宿西口プロムナード・ギャラリーでミケランジェロ会の絵画、写真、書の展示を行いました。展示期間は5月24日～6月7日の2週間です。ここはJR、小田急、京王線などの改札が集中する新宿西口の広場に面しており、東京都道路整備保全公社に申し込み、抽選で当選したときに借りられるものです。幸い毎年当選しアーキテクト・ガーデンに参加して展示しています。多くの乗降客が行き交う場所でJIA会員の芸術活動をアピールすることができまし



新宿西口プロムナード展
ミケランジェロ会員による講評風景

た。アーキテクト・ガーデンのパネルも展示しました。4月24日に神楽坂でスケッチ会を行い、7人が参加し、その成果も出展されました。昨年の府中郷土の森や川崎民家園の民家の絵も混じっています。

今回の出展は14名、46作品です。絵画40点、書2点、写真4点です。絵画の内訳は水彩画26点、油彩画7点、鉛筆画2点、版画3点、日本画2点と多種にわたりました。



今井陸之会員の日仏会館と理科大・二村記念館のスケッチ

〈一級建築士事務所 みらい〉

展示・ワークショップ 学生デザイン実行委員会

第23回 東京都学生卒業設計コンクール2014

学生デザイン実行委員会委員長 倉本 剛



■ 今年のコンクールは、5月31日(土)、6月1日(日)に開催されました。会場は工学院大学新宿キャンパス1階アトリウム。トップライトから光が降り注ぐ4層吹き抜けの大空間の下、都内23大学から推薦を受けた51作品が一堂に会しました。31日には公開審査が行われ、審査過程を見ようと多くの聴衆を集めました。栗生明委員長のほか、加茂紀和子氏、西沢立衛氏、鈴木啓氏を審



審査委員全員へのプレゼンテーションと質疑応答

査委員に迎え、ほぼ丸一日かけて、金賞・銀賞・銅賞・各審査委員賞・審査委員特別賞のあわせて8作品を選出いただきました。

学業に努力してきたその集大成である卒業設計作品について、

第一線で活躍される審査委員が様々な視点から公開で審査をする。その過程で出展者は、審査委員どうしの議論はもちろんですが、各審査委員への一対一での対話や、審査委員全員へのプレゼンテーション、質疑応答など、大変貴重な経験をしました。結果は様々でしたが、このコンクールを経た彼らが社会に出てどのような建築活動を展開するのか。今後の活躍を期待しています。

〈倉本剛建築設計事務所〉



審査委員との1対1の対話

展示・ワークショップ 神奈川地域会

子ども空間ワークショップ in 横浜開港祭 2014

神奈川地域会 高橋 隆博



■ 横浜港最大のイベント横浜開港祭2014、今年は5月31日～6月2日の3日間の開催となり、私どもJIA神奈川は、その初日に昨年に引き続き「子ども空間ワークショップ」を催しました。潮風が心地よい初夏を感じる青空の下、みなとみらいの高層群を間近に望む臨港パークの潮入の池周辺の芝生の上で31組90名を超える親子との一日を満喫しました。角材とジャンボ輪ゴムで街をつくるといった恒例のワークショップではあ



港に面した芝生の丘に角材で街をつくる

りますが、今回は学校や特定の団体を対象ではなく、一般公開で行う単発イベントです。ただ楽しいだけではなく「住育」につなげるべく試行錯誤も必要でした。運営はJIA神奈川(正会員7名、法人協力会員4名)に加え、

学生ボランティア8名の力を借りて行い、現地での受付順に数組の家族でチームをつくり製作開始、完成しても解体せずにその日の終了まで家々を展示しました。その甲斐もありそこは数万人の人出があるお祭りです、立ち止り見入る人々や熱心に質問される方々も多く、参加者はもとより多くの市民にこのワークショップのエッセンスやJIAをお伝えすることができ、大規模なイベントならではの、有意義な一日となりました。

〈(株)アトリエ工〉



撤収前に一息つくスタッフたち



アーキテツ・ガーデン2014

基調講演＋懇親会

作品づくりと社会貢献の両立を目指して／講演：坂 茂

主催
JIA関東甲信越支部アーキテツガーデン
実行委員会

日時： 2014年7月3日(木曜日)

場所： 基調講演：建築家会館本館1階ホール／懇親会：JIA館1階建築家クラブ

参加者： 基調講演：177名(一般・学生120人)／懇親会：98名

プログラム概要

今回、基調講演では、坂茂氏による講演会「作品づくりと社会貢献の両立を目指して」を開催しました。定員120名のところ立見者を含め177名の参加者で会場は埋め尽くされ大盛況になりました。その内、短い告知期間にも関わらず一般77人・学生も43人の参加があったことからこの反響ぶりを理解できると思われます。また坂氏に掲げて頂いたテーマは公益社団法人の講演会として、とても合致したものであり内容も社会に対する『建築家の姿勢』を強く窺い知るものであってのではないのでしょうか、後7月11日付けの建設工業新聞でも『ビジネスシステム構築し社会貢献』とAG基調講演が紹介されたその内容からも公益性を感じ取れます。

懇親会は予定60名のところ坂氏の参加も相まって98名の参加とこちらも大盛況でした。ケイタリングはフィンガーフードとしゴミを出さない配慮をしたり、サプライズ的にプリッカー賞受賞のお祝いとしてケーキ入刃を行ったりしました。なお、この懇親会の時に各ユニットの報告会を映像を使って紹介する予定でしたが、予想を超える参加人数と盛況な状況から結果的には急遽中止になりました。アーキテツガーデンは一昨年から開催時期を秋から春に変更し、6月15日「建築家の日」の前後約1ヶ月をアーキテツガーデン月間とし開催して参りました。今年度は委員会の出遅れ、基調講演・坂氏との調整等もあり約半月遅れの開催となりました。今回の地域サミットには間に合わせられず報告をすることが出来ませんが、開催時期・広報・メインセミナー・懇親会について次回へ向けての改善会議を行う予定です。





アーキテクト・ガーデン2014

講演会・シンポジウム

プログラム名

建築見学会

「戦後日本住宅伝説展」+「ヒヤシンスハウス」+「ヤオコー美術館」

主催
JIA栃木地域会

日時： 2014年7月12日(土曜日)

場所： ヤオコー川越美術館、ヒヤシンスハウス、埼玉県立近代美術館

参加者： 約16名(JIA会員4名、一般12名)

プログラム概要

好天に恵まれた7月12日、JIA栃木クラブ主催の建築見学会を行いました。参加者数は会員4名に一般参加者12名を加えた合計16名です。

朝8時に宇都宮を出たバスは、最初に川越郊外にある伊東豊雄氏のヤオコー美術館に着き、完成度の高いインテリアと住宅地にフィットする小ぶりなヴォリュームを見学しました。

お昼は川越市内にある鏡山酒造跡地を再生した商業施設で「天井+蕎麦」をいただいて施設を見学。そのあと、浦和の別所沼公園内にたたずむ立原道造のヒヤシンスハウスを見学しました。内部の空間体験が出来た事は本日の大収穫です。

そして埼玉近美の「戦後住宅伝説展—五十嵐太郎監修」で年配者は昔を振り返りながら、若い人は新鮮な驚きを感じながら鑑賞した、とても満腹感のある1日でした。





アーキテクト・ガーデン2014

講演会・シンポジウム

風致地区とは — 地域の資産を活かしたまちづくり

主催
都市デザイン部会

日時： 2014年7月5日(土曜日)17:15 ~ 19:30

場所： 建築家クラブ

参加者： 約 25名(一般約10人)

プログラム概要

「風致地区とは-地域の資産を活かしたまちづくり」をテーマとした、当部会恒例の円卓セミナーは阿部伸太先生による講演「風致地区制度から読み解く街を育てる仕掛け」から。

「風致地区制度は指定することによってのみ風致の保存を図ろうとする制度ではなく、指定の後、その地区の都市化の実情を踏まえた風致の維持(・育成)を可能にしようとした制度であった」との、この制度の理念に関わるお話の中に、この制度が高い志に根付いたものであることを知る。

石川栄耀やレイモンド・アンウインの目指した田園都市のイメージには、自然システムとしての「風土」と社会システムとしての「人の生活」の上に風致資源があるとしたもので、このダイアグラムとともに一体として育成組織の必要性があったことを説かれた。そこには彼らが官製都市計画の限界を感じ「上からでなく下から積み上げていく都市計画」を目指したことに繋がる。すなわち、風致地区制度は指定された後は行政の主導ではなく市民が守り育てるものである、ということが都市計画上の意義であり、この制度の「重み」であることを、意見交換にて共有した。



日時： 2014年 5月16日(金曜日)、6月19日(木曜日)、第3回未定
場所： (株)構造計画研究所 B階 大会議室、JIA館1階 建築家クラブ

参加者：第1回 19名(JIA会員 14名・他 5名)、第2回 17名(JIA会員 11名・他 6名)
※他：事務所協会会員、専門家等

プログラム概要

建築家が設計してくれた(orくれる)自分の建物は、これまでに来たような大地震なら十分耐える、..一般のクライアントは、そう考えている場合がほとんどかもしれない。想定内の天災ならダメージを回避するのが今日の設計技術の当然の水準、という正当な思い込みなのだ。震度7でも無傷でやり過ごせるとする人も、中には居そうだ。であればなお、私たち建築家は自ら設計した建物の、地震によるリスクをクライアントに十分に説明する責任があるだろう。

建築基準法を構造担当者が守るのだから、デザイナー側は安心していけば良い、というのでは、施主とのインフォームドコンセントが成立しておらず、法的にも問題になりかねない面がある。

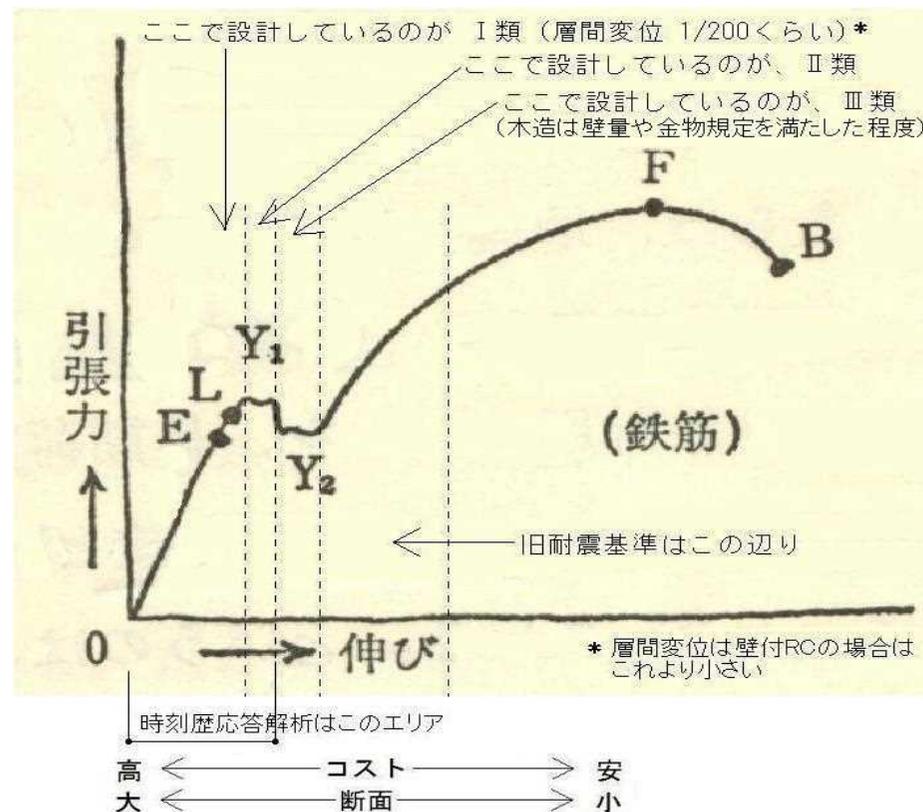
そこで構造計画研究所(中野区)の技師長・高橋治氏を講師に、3回シリーズの勉強会をAGの一環として企画した。終了した2回分から、エッセンスを Bulletin 誌に掲載しているので、お読み頂けると幸甚である。

[内容例]

・品確法における「耐震等級3」が、重要な公共建築物のための耐震レベル「I類」に匹敵し、基準法の1.5倍相当の地震力に対抗、同じく「耐震等級2」が、一般公共建築物「II類」に匹敵、基準法の1.25倍相当となる。

・これを建物の部材の内部応力で見ると、右図のように把握できる。

すなわち、リニアな弾性変形範囲での設計がI類(耐震等級3)であり、一応は原形に戻るギリギリがII類、塑性変形まで許すのがIII類(耐震等級1=基準法水準)ということになる。





アーキテクト・ガーデン2014

講演会・シンポジウム

トラブルを未然に防ぐために

第三者の目によるチェックのすすめ！！

主催
建築相談委員会

日時： 2014年 6月 14日(土曜日)

場所： AGCstudio (旭硝子ショールーム)

参加者： 約 45名(一般約 20人)

プログラム概要

第一部は東京都消費生活総合センター主任相談員玉城恵子さんから、一般消費者の建築相談内容と傾向についてPPを用いてお話いただいた。第二部は、首都圏相談室の尾崎、小島、白須、高塚各相談室員から、マンションの維持・管理のトラブルへの関わり方や解決方法、計画修繕のチェックポイント、戸建住宅の構造や設備関連のトラブル解消に向けた係り方と技術面のチェックポイントを、理解しやすいようにイラストや写真を多用し技術資料や事例をPPで紹介した。

一般の方、相談者、消費者相談員、弁護士、リフォーム・紛争処理支援センター、JIA相談室員等45名が参加。セミナーはユーストリーム配信予定。後援：東京都消費生活総合センター





アーキテクト・ガーデン2014

講演会・シンポジウム

プログラム名 パリの建築を訪ねて

主催
茨城地域会

代表 河野 正博

日時：2014年 6月25日(水曜日)
場所：水戸市内「レストランよこかわ」

参加者：20名(一般3人)

プログラム概要

アーキテクト・ガーデン「パリの建築を訪ねて」

2013年11月に茨城地域会にて実施したパリの建築探訪について報告会を行った。会は、プロジェクターにて、訪問建築を投影しながらの解説を、会員の飯島、佐藤、篠根、石川より行い、懇談形式で進めた。

食事をとりながらのサロンのような雰囲気の中会を運営でき、会員の新たな情報収集、振り返りのよい場となった。
また、一般の参加者からも積極的に質問をいただき、また建築家にはない視点でのコメントも聞くことができ新鮮な時間となった。

ツアーの概要は、以下の通り。

期間：2013年11月22日
～2013年11月28日

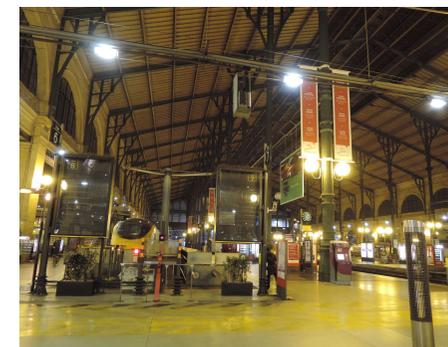
参加人数：8名

視察地：パリ市内

：モン・サン・ミッシェル
：ポンピドゥセンター・メス



会場の様子



北駅



モン・サン・ミッシェル



ポンピドゥ・メス



ルーブル・ランス

日時： 2014年6月24日(火) 18:30--21:00 会場： JIA館1F 建築家クラブ

参加人数： 65名(会員17名+一般参加45名+パネラー3名)

昨年度よりのデザイン部会のテーマである「アートと建築」シリーズ企画です。

写真表現と建築表現の関係について、写真家、建築写真家、建築家という3つの異なった視点から論じました。

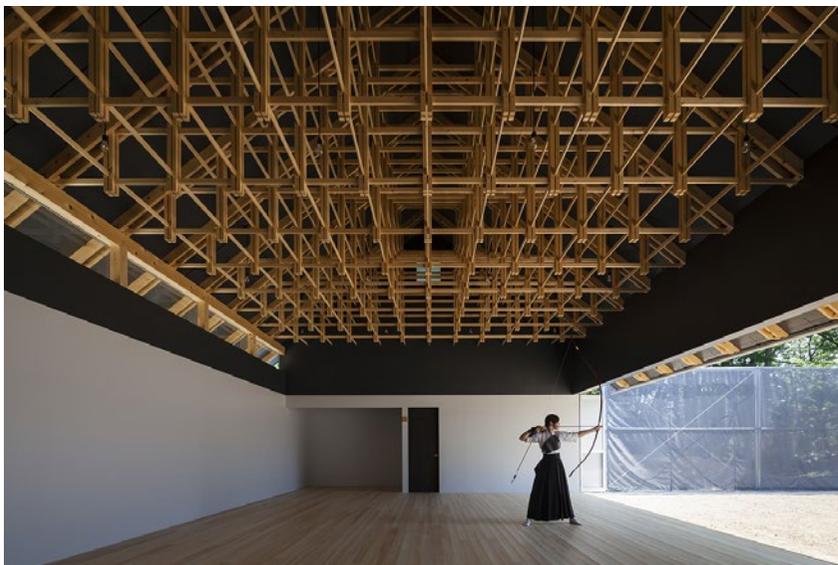


小川重雄(おがわしげお) 建築写真家
元「新建築」誌写真部長



鷹野隆大(たかのりゅうだい) 写真家
第31回木村伊兵衛写真賞受賞

山本想太郎(やまもとそうたろう) 建築家
JIAデザイン部会長



工学院大学弓道場
小川重雄
(c)Shigeo Ogawa

04.09.12(「毎日写真」より)
鷹野隆大
(c)Takano Ryudai
Courtesy of Yumiko Chiba Associates,
Zeit-Foto Salon



日時：2014年 7月 19日（土曜日）14:00～17:00
場所：狭山湖畔霊園 管理休憩棟および森の礼拝堂

参加者：30名（JIA会員2名、その他28名）---定員25名
 < JIA会員2名、会員以外の建築関係者14名、一般5名、学生9名 >
 プログラム概要

◆ねらい；

関東甲信越支部に発足した新生・環境委員会のシリーズ企画の第1弾は、アーキテツガーデンの中で実施されることになりました。環境委員会の企画行事のニックネームを「フォーラム環境」と名付けています。2014年度のシリーズテーマ名は「建築とつながる緑」。建物の周辺環境として欠かすことのできない「緑」を新しい視点でとらえた建築家の作品に焦点を当て、設計者から解説を受け、市民・専門家を問わず共に楽しみ、生き活きた環境配慮社会を探る行事となることをねらいました。初回は「講演会」と「見学会」を組み合わせています。（講演会は6/26（木）に建築家会館本館1Fホール、見学会は7/19（土）狭山湖畔霊園。）

◆広報の方法；

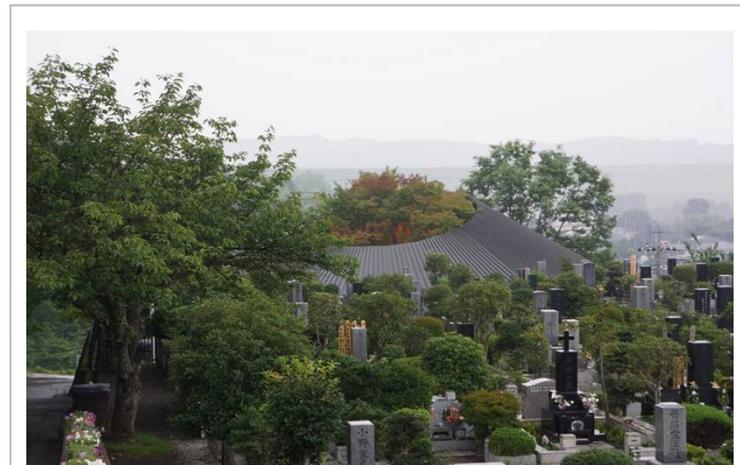
チラシは5月中旬のJIA-MAGAZINE、Bulletin送付時に同封することによりJIA会員の手に渡りました。その後アーキテツガーデンの広報に伴いHP上でプログラム紹介が行われました。並行してWeb利用（無料）の「イベント紹介サイト」を数か所選び、掲載を依頼しました。これらの効果により「講演会」「見学会」ともに早期に定員超えとなりました。

◆「見学会」の内容；

（株）NAP建築設計事務所・中村拓志氏の設計による「狭山湖畔霊園 管理休憩棟・森の礼拝堂」に参加者が集合し、同事務所の谷口幸平氏、宮地国彦氏により説明が行われました。コンペ応募時の様子からクライアントとの長期にわたる検討を踏まえての実設計、工事監理時の様子、竣工後1年半を経て建物が使われている様子、四季折々の佇まい、など空間体験しながらの見学。現地に当建築の掲載された雑誌や工事中のビデオ映像などが常備されており、一般の霊園使用者の方にこの建物への理解を深める工夫が感じられました。霊園という施設の性質上、クライアントの強い願いから未来にわたり持続し続ける建築が求められ、それに応える設計者の様々の工夫を、全体構成から細部に至るまでじっくりと見学することができました。あいにくの小雨模様で、水盤から室内へ反射する光を見ることができませんでしたが、秋の紅葉の場面の説明も受け、参加者それぞれがいろいろな想像をしながらゆったりとした時間の中で見学を楽しみました。

◆「講演会」の参加状況；

早期に定員の25名が埋まり、キャンセル待ちリストができました。会場の広さおよび当日の一般利用者の方への影響を考慮し30名で見学しましたが、適切な人数でした。半数がJIA会員以外の建築関係者でした。本イベントを何で知ったかヒアリングを試みたところ、Webのイベント紹介サイト、また、それを見て良いと思った人のツイッターを見た、FACEBOOK上の友達の情報から、というケースが8割あまり、知人からチラシをもらった人2名、という状況でした。中村氏の設計作品に対する関心の高さが学生のみならず若い建築関係者に広がっていること、また講演会同様、法人協力会員に特別協賛を頂き、参加費を無料にすることができたことが盛況の要因と見られました。講演会同様、JIA会員への広報の工夫については、課題が残されているようです。



遠景；墓地側の高台から望む狭山湖畔霊園 管理休憩棟。



見学風景；狭山湖畔霊園 森の礼拝堂を見学する参加者

日時： 2014年 6月 26日（ 木曜日）16:00～18:00

場所： 建築家会館本館1階ホール

参加者： 132名（JIA会員29名、その他103名）

＜JIA会員29名、会員以外の建築関係者62名、一般20名、学生21名＞

プログラム概要

◆ねらい；

関東甲信越支部に発足した新生・環境委員会のシリーズ企画の第1弾は、アーキテツガーデンの中で実施されることになりました。環境委員会の企画行事のニックネームを「フォーラム環境」と名付けています。2014年度のシリーズテーマ名は「建築とつながる緑」。建物の周辺環境として欠かすことのできない「緑」を新しい視点でとらえた建築家の作品に焦点を当て、設計者から解説を受け、市民・専門家を問わず共に楽しみ、生き活きた環境配慮社会を探る行事となることをねらいました。初回は「講演会」と「見学会」を組み合わせています。

◆広報の方法；

チラシは5月中旬のJIA-MAGAZINE、Bulletin送付時に同封することによりJIA会員の手に渡りました。その後アーキテツガーデンの広報に伴いHP上でプログラム紹介が行われました。並行してWeb利用（無料）の「イベント紹介サイト」を数か所選び、掲載を依頼しました。これらの効果により「講演会」「見学会」ともに早期に定員超えとなりました。

◆「講演会」の内容；

上浪支部長に冒頭の挨拶をお願いし、続いて講演が行われました。中村拓志氏の緑に添う・緑と共にある印象深い建築空間が設計過程の逸話とともに次の順序で紹介されました。(1)集合住宅「Dancing trees, Singing birds」(2)録(ろく)ミュージアム(第13回JIA環境建築賞 最優秀賞)(3)東急プラザ表参道原宿(4)狭山湖畔霊園 管理休憩棟・森の礼拝堂 (5)熱海のツリーハウス (6)Nasu Tepee (7)Ribbon Chapel など。トークセッションでは、環境委員会の3名の委員(寺尾信子・長井淳一・湯浅剛)が予め見学してきた「録ミュージアム(栃木県小山市)」について、それぞれの現地体験・感想を披露して中村氏に質問をし、また会場からの質問も受けました。2時間のプログラムは充実の内容で終わり、同じ会場でその後、懇親会(47名参加)が行われました。

◆「講演会」の参加状況；

平日にもかかわらず、建築家会館本館1Fホールの椅子120席は満席、窓際のベンチ席も利用して、主催側含め132名参加の行事となりました。アーキテツガーデンに相応しい開かれた参加者構成でした。構成概要はおおよそ、JIA会員：会員以外の建築関係者：一般：学生＝1：2：1：1、でした。早期に定員超えとなったのは講師中村氏の講演内容への高い期待が大きなものだったと思いますが、法人協力会員に特別協賛を頂き、参加費を無料にすることができたことで応募数が伸びたことも推測されます。全体としては盛況でしたが、会員参加者の比率が2割程度とやや低く、JIA内での広報の工夫は今後の課題として残されているようです。



講師；(株)NAP建築設計事務



会場風景；窓際のベンチ席まで活用。

日時：2014年6月14日(土曜日)

場所：恵比寿駅～西小山駅

参加者：約 20名(一般約 5人)

プログラム概要

恵比寿駅を出発点に、恵比寿ガーデンプレイス、目黒駅、ドレメ通り、不動前駅、目黒不動尊、林試の森、と目黒区と品川区の区界域を歩き、西小山駅をゴールとしました。

まち歩きは、ガーデンプレイスに代表されるダイナミックな地域を観た後、日の丸自動車学校、聖アンセルモ教会、杉野ドレメ学園、喜多能楽堂、などの文化的な施設、大円寺、氷川神社、かむろ坂、目黒不動尊に代表される歴史的施設、そして、林試の森と言う自然豊かな地域を巡りました。途中、不動前駅周辺で、昼食休みとしました。

西小山駅に近い目黒本町5丁目域は、東京都のハザードマップで、大震災時に最も延焼の恐れが高い地域とされ、拡幅された品川区の「かむろ坂通り」から続く計画道路補助46号線拡幅の進捗状況を観ました。

自由に参観できた聖アンセルモ教会と併せて、喜多能楽堂では館内見学の貴重な機会を得ることができました。

西小山駅での解散の直前に、新会員の加藤雅明氏の案内で、原町1丁目のユニークなSITE(ご自分の事務所)を見学できました。

目黒区の近代的な建築群と共に、文化性豊かな地域、歴史的な地域、自然豊かな地域を見て回り、地域の町並みの多様性を実感できました。

以上、目黒区と品川区の区界を中心に全行程7.2kmの道のりを約5時間かけて歩き終え、ました。

当日は、梅雨時の真っ只中にも拘らず、幸運にも晴天に恵まれ、JIA城南地域会の4名を含む、総勢20名の参加者を集め盛会のまち歩きとなりました。





アーキテクト・ガーデン2014

レクチャー・街歩き

プログラム名 千代田で探す鉄道遺産と技術者の知恵

主催 JIA千代田地域会

日時：2014年7月12日(土曜日)

場所：東京都千代田区内(御茶ノ水→神田→秋葉原)

参加者：25名(一般16人)

プログラム概要

御茶ノ水ー神田ー秋葉原を結ぶ三角形のエリアには、駅・橋・架道橋、高架橋・そして煉瓦造・鉄骨造・RC造など、明治時代から現代に至る多様な鉄道遺産が集積しています。それは、過去の遺産ではなく、現役のリビング・ヘリテイジです。

そのような鉄道遺産を、鉄道総合技術研究所の小野田滋氏と巡り、技術者達の知恵と工夫を発見すると共に、都市の景観としての価値を認識する街歩き「千代田で探す鉄道遺産と技術者の知恵」をJIA千代田地域会の主催で開催しました。

日本大学の教室で鉄道遺産と鉄道技術者のレクチャーを受けた後、小野田氏のガイドで2時間の街歩きを楽しみました。



昌平橋より神田川橋梁を見学



旧万世橋駅の鉄道遺産を活かし再生された商業施設MAAch前で集合写真



アーキテツ・ガーデン2014

街歩き・見学会

国立近現代建築資料館見学会

主催
情報開発部会

日時： 2014年 7月 4日(金曜日) 14:30～16:30
場所： 国立近現代建築資料館(東京都文京区湯島4-6-5)

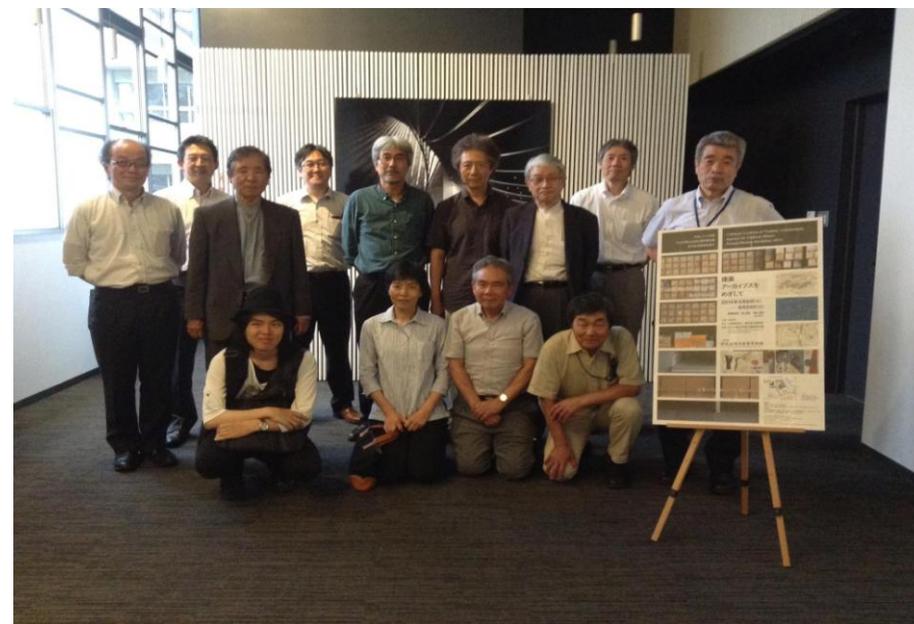
参加者:13名(一般 7人)

プログラム概要

国立近現代建築資料館では、我が国の近現代建築に関する資料(図面や模型等)について、劣化、散逸、海外への流出等を防ぐことを目的として、全国的な所在状況の調査、関連資料を持つ機関(大学等)との連携、緊急に保護が必要な資料の収集・保管を行っています。

今回の見学会では展示品の観覧の他に、桐原武志主任調査官(JIA会員)による館内の案内に加え、情報収集の仕組み・資料の保管方法に関する貴重な解説も行っていました。

JIA会員6名の他に、会員以外にも7名の方々にご参加いただき、建築図面のアーカイブスの動向、デジタル展示等にふれることができ、大変有意義な見学会となりました。





アーキテクト・ガーデン2014

展示・ワークショップ

JIA世田谷地域会模型展「小学生とつくろうこれからの街」

主催
JIA世田谷地域会

日時：2014年7月1日(火)～31日(木)

場所：世田一ハウス

プログラム概要

アーキテクトガーデン2014のテーマ「建築家はともだち」を受け、世田谷地域会では区内小学生に建築家の仕事を見てもらうことを目的に、模型展を行いました。

期間は7月4日(金)より7月13日(日)までの10日間、場所は世田谷ポロ市で知られるポロ市通りに立つ昭和初期の商店建築を改修した世田一ハウスで、延べ130人の来場者がありました。

このうち小学生は15名で期待を下回る数字にはなりましたが5日(土)と12日(土)に行われた「割りばしと輪ゴムで作る僕の城(12日のテーマは未来都市)」のワークショップは合計8名の参加があり、猛暑をものともせず大変な頑張りを見せ、素晴らしい成果を残しました。



会場の 世田一ハウス 世田一ハウス



模型展の様子



ワークショップの始まり



段々面白くなってきました



アーキテクト・ガーデン2014

展示・ワークショップ

第23回東京都学生卒業設計コンクール2014

主催 JIA関東甲信越支部
学生デザイン実行委員会

日時： 2014年5月31日(土曜日)・6月1日(日曜日)

場所：工学院大学新宿キャンパス1階アトリウム

参加者： 約100名(一般約20人)

プログラム概要

社会に対する建築家の使命と役割を自覚し、次の世代の人々にもしっかりと伝えていくことを目的に、東京都に所在する大学の卒業設計作品を対象とした「東京都 学生卒業設計コンクール」を毎年開催しています。将来の建築家を目指して学業に努力してきたその集大成である卒業設計作品について、私たち実社会からの評価を伝えることにより、学生時代の心に残る記念とし、本コンクールが出展者の今後の社会での一層の活躍に寄与することに期待しています。

今年は、都内23大学より推薦を受けた51作品が、トップライトからの光溢れる4層吹き抜けの大空間の下、一堂に会しました。5月31日には公開審査が行われ、審査過程を見ようと多くの聴衆を集めました。栗生明審査委員長のほか、加茂紀和子氏、西沢立衛氏、鈴木啓氏を審査委員に迎え、ほぼ丸一日かけた議論と投票、出展者のプレゼンテーション、質疑応答を経て、金賞、銀賞、銅賞、各審査委員賞および審査委員特別賞の8賞を選出していただきました。

